（３）町内会（自治会）の地域活動

地域における自主的な活動の基本は町内会活動であり、平成２６年度では８４の地域で町内会が組織され、安全で住み良い地域づくりに貢献しております。

それぞれの町内会では、高齢者の見守りや青少年の健全育成など、地域の福祉活動に寄与するとともに、様々な事業、行事に取り組んでいます。また、地域防災力の充実や強化に向けた自主防災の組織化など、震災などの自然災害に対する新たな活動の取組を行う町内会も増えています。

一方、町内会役員の高齢化や担い手不足が深刻化する中で、広報の配布を中止するなど､町内会活動を取り巻く環境も変化しております。

苫小牧市の全世帯の約６割が町内会に加入し地域活動を展開していますが、町内会組織への加入世帯数はゆるやかな減少となっており、町内会の加入率は年々低下しています。

苫小牧市における町内会加入率　　市民生活課資料

年度	住民基本台帳 世帯数(4月)	町内会加入 世帯数	町内会 加入率
平成23年	82,847	55,106	66.5%
平成24年	83,984	54,833	65.3%
平成25年	84,942	54,573	64.3%
平成26年	85,912	53,910	62.8%

道内他市の町内会加入率　　平成26年4月現在

市	加入率	市	加入率
函館市	59.1%	帯広市	65.2%
旭川市	60.3%	室蘭市	67.9%
釧路市	45.8%	札幌市	70.5%

Ⅳ　地域住民の意識

地域福祉に関する市民意識調査結果

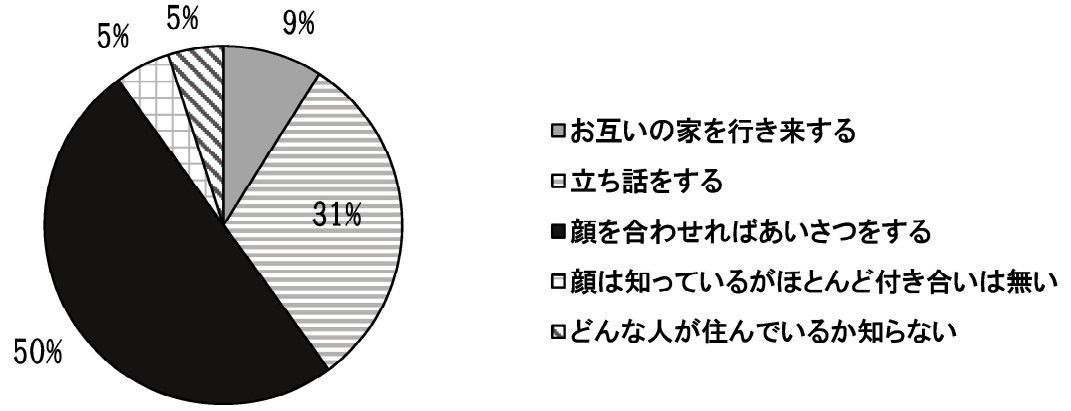
苫小牧市地域福祉計画策定のためのアンケート調査
- ○実施時期　平成26年8月
- ○対　　象　満18歳以上の苫小牧市民（無作為抽出）
- ○配 布 数　2,000件
- ○回 収 数　778件（回収率 38.9%）

（１）地域への関わりと地域活動に対する考え方

ア　近所付き合いの状況

近所付き合いは「立ち話をする」割合が前計画のアンケート結果より増えており、「お互いの家を行き来する」「顔をあわせればあいさつをする」と合わせると９０％以上が地域との結びつきがあるとの結果でした。

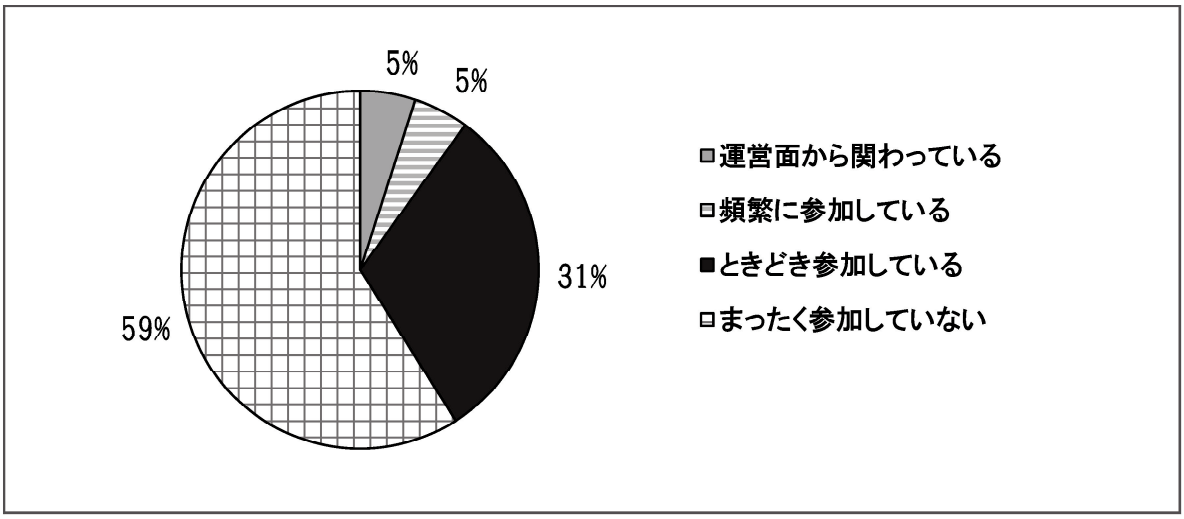
しかし、「お互いの家を行き来する」割合は前回より４ポイント減っており、特に若い世代では、低い割合となっていました。



イ　地域活動への参加の状況

地域活動への参加の状況については、「まったく参加していない」が５９％と前回より５ポイント増、「ときどき参加している」が３１％と前回より７ポイント減と、地域活動への参加状況は低下している傾向がみられます。

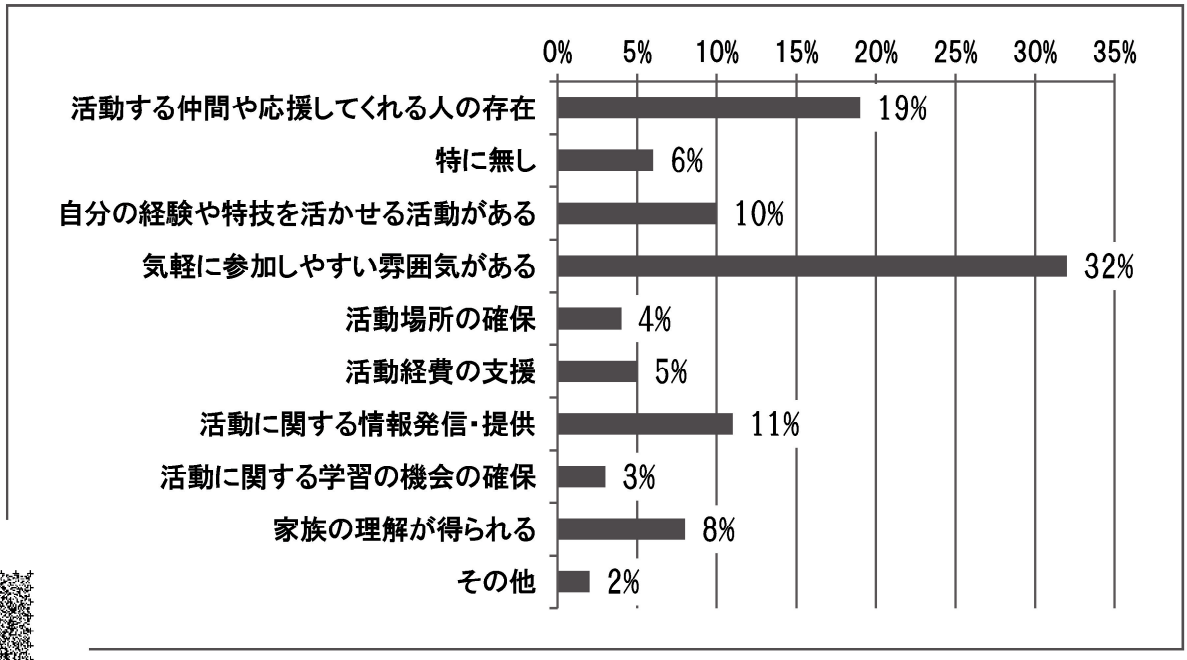
町内会などの何らかの地域活動に参加している割合は、地区別では中央地区が他の地区と比較して１０％程度高く、東地区が低い割合となっていました。



ウ　地域活動を活発にするために重要と考えること

地域活動の参加は、参加しやすい雰囲気、仲間や応援してくれる人の存在など、人のつながりに関する要素が参加動機となる傾向が大きくなっています。

また、町内会等への参加意識が比較的高かった中央地区においては、他の地区と比べ「家族の理解が得られること」が地域活動を活発にするための要素であるとの認識が大きい傾向があります。



エ　地域活動に参加していない理由

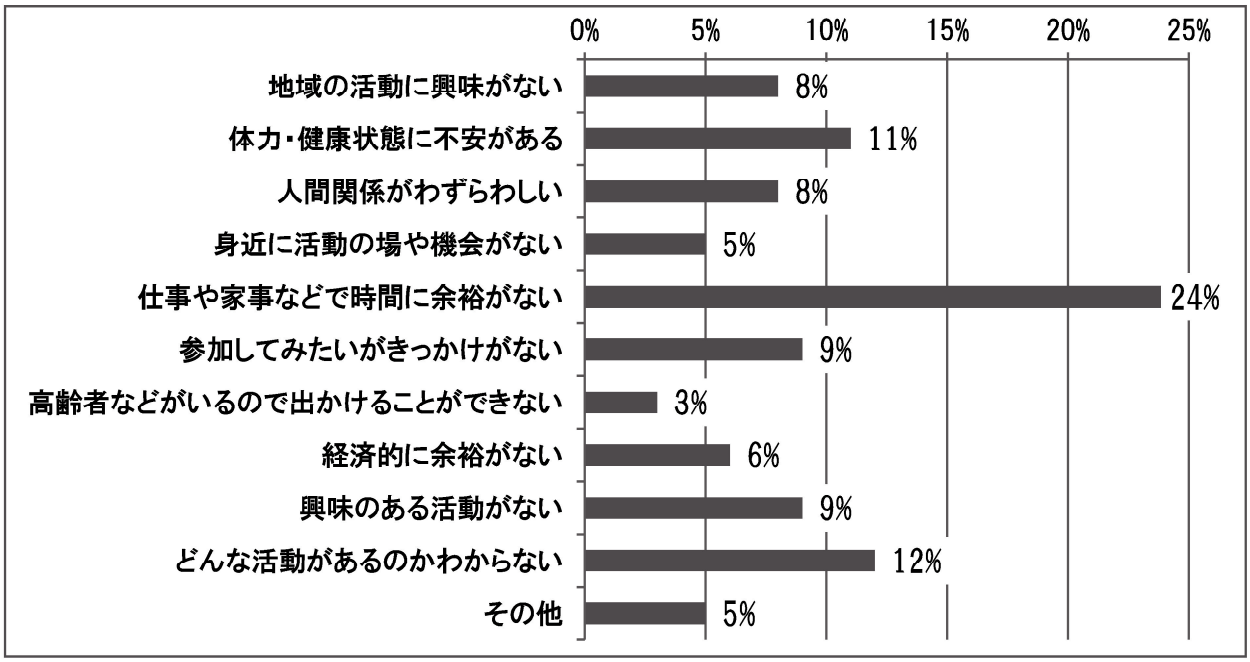
主な理由としては、

① 時間・経済・健康の面で余裕がない

② 興味のある活動やきっかけ、情報がない

③ 人間関係がわずらわしい、活動に興味がない

と、大きく分けて３つの傾向を示しています。



＜課題＞

・声かけや交流などをきっかけに地域活動の基礎となる市民生活のつながりを強める取組が必要です。

・地域活動を活発にするためには、幅広い市民に「地域福祉」についての理解を深めることが重要になると考えられます。

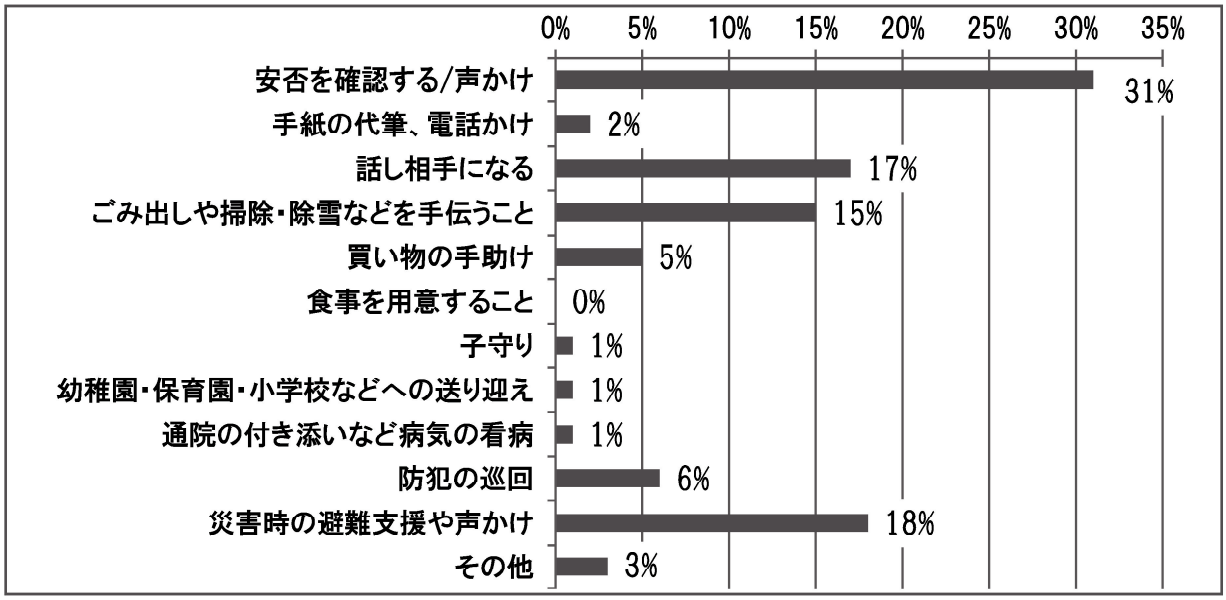
・仕事や家庭の事情から地域活動に参加できない市民がそれぞれの状況に応じて参加できるようなきっかけづくりが必要です。

（２）地域活動の情報提供に対する考え方と参加意向

ア　地域での支えあいへの参加

地域での奉仕活動や地域住民の支えあいは、どの地区、どの年代においても多くの市民が必要であると感じています。

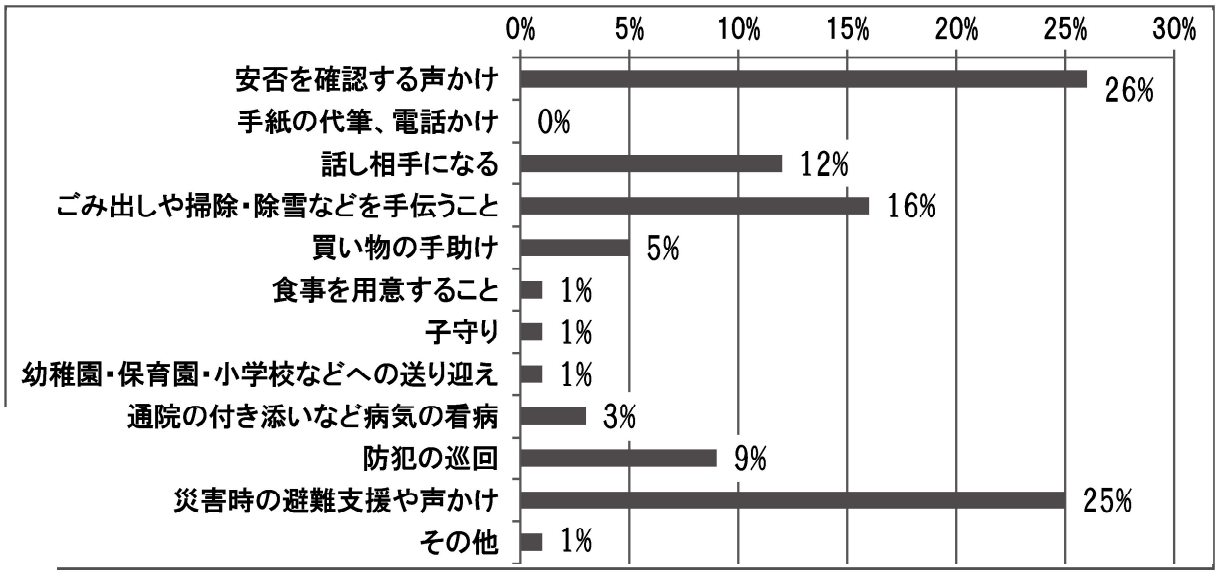
支援が必要な方がいる近所の世帯に対しては、安否を確認する声かけや話し相手など、手軽にできることや災害時における避難支援、ごみ出しや掃除、除雪などで支えたいとの回答が多くなっています。



イ　地域住民からの支援

地域住民からの支援の希望については、手軽にできることや災害時の支援を身近な人から受けることを望む傾向にあります。

このことから、支援したい内容と支援を受けたい内容がほぼ同じであることがわかります。



支援を受けたくないと回答いただいた方の理由については、「必要性を感じない」という回答が多く、特に西地区では東地区の５倍となっています。

また、「他人の世話になりたくない」という回答では、東地区で西地区の５倍の割合となっていました。

「プライバシーが守られるか不安だから」という回答については、６０代以外の各世代でおよそ２０％の高い割合を占めています。

＜課題＞

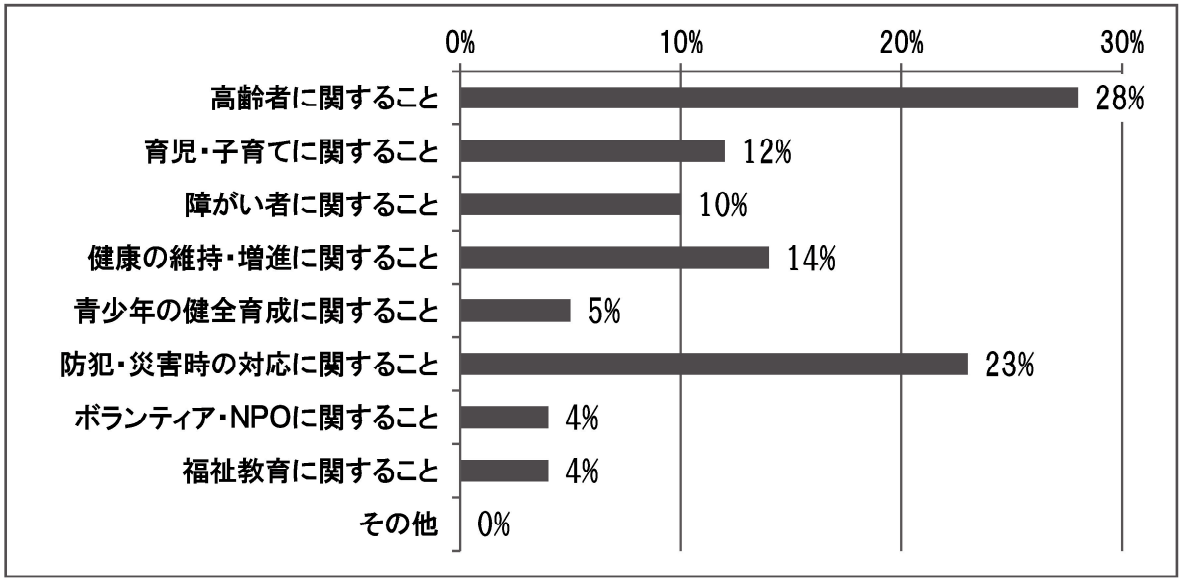
・地域のなかで支援を必要としている人と手助けする人とを結びつける仕組みづくりが求められています。

・個人情報については取扱方法などについての制限が大きくなっている状況から、各町内会における見守りの必要な方の日常活動や災害時に備えた要支援者の把握等、地域における福祉活動の推進が困難とならないよう状況に応じたルールづくりが必要となっています。

（３）生活課題とその解決方法など

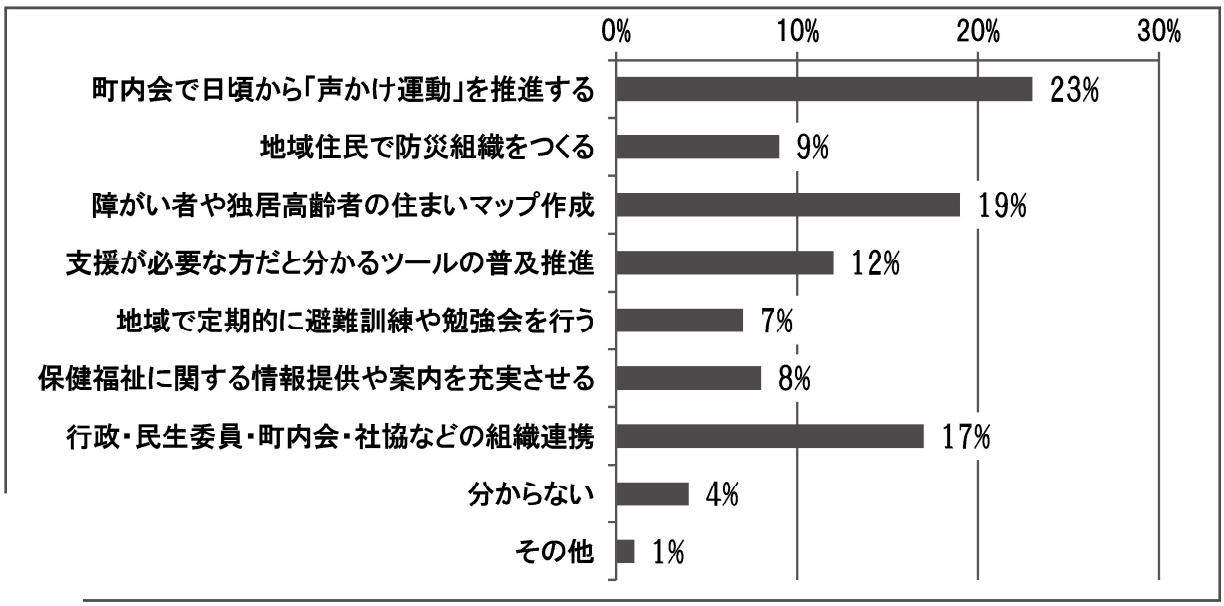
ア　福祉分野での不安や悩み

福祉の分野については、高齢者に関することや防犯・災害時の対応についての関心が高くなっています。また、家族・親戚や友人・知人・職場の人のような身近な人に悩みや不安を相談したいと多くの人が考えています。



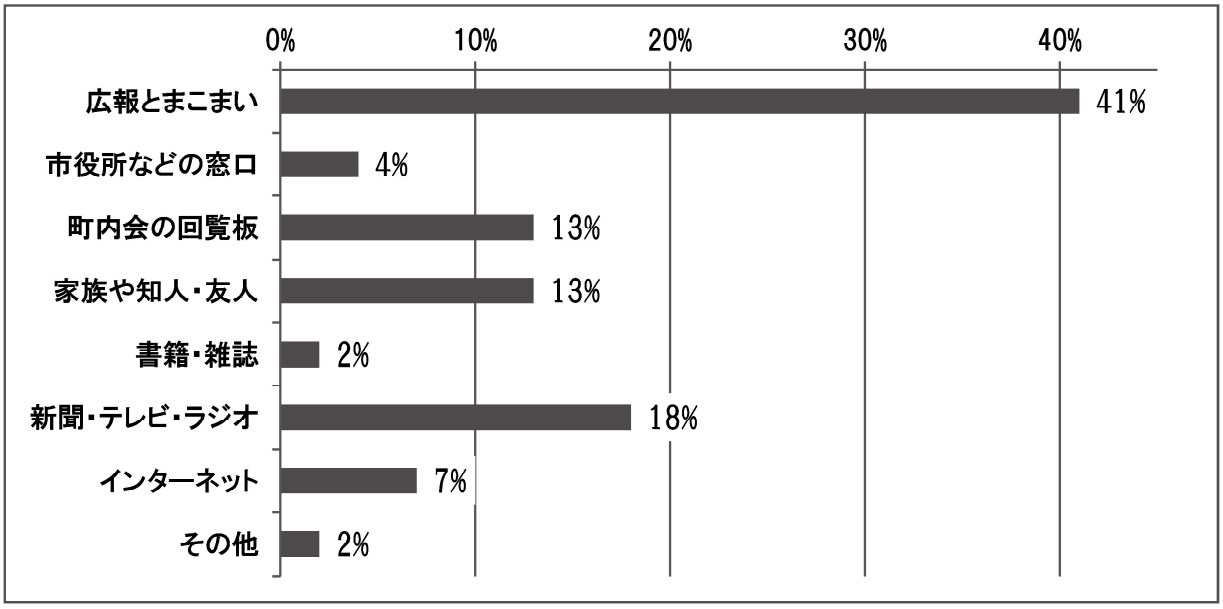
イ　福祉問題の解決方法

日頃の生活のほか、災害時においては、声かけ運動の推進やマップの作成などにより、住民の状況を把握しておくことが必要だとの意見が多く出ていました。



ウ　福祉に関する情報収集の方法

福祉に関する情報については、広報とまこまいが大きな情報源との回答が多くなっておりますが、必要な情報の不足を感じているとの回答も見られました。また、２０代以下の若い世代では、インターネットの割合が大きくなっています。



＜課題＞

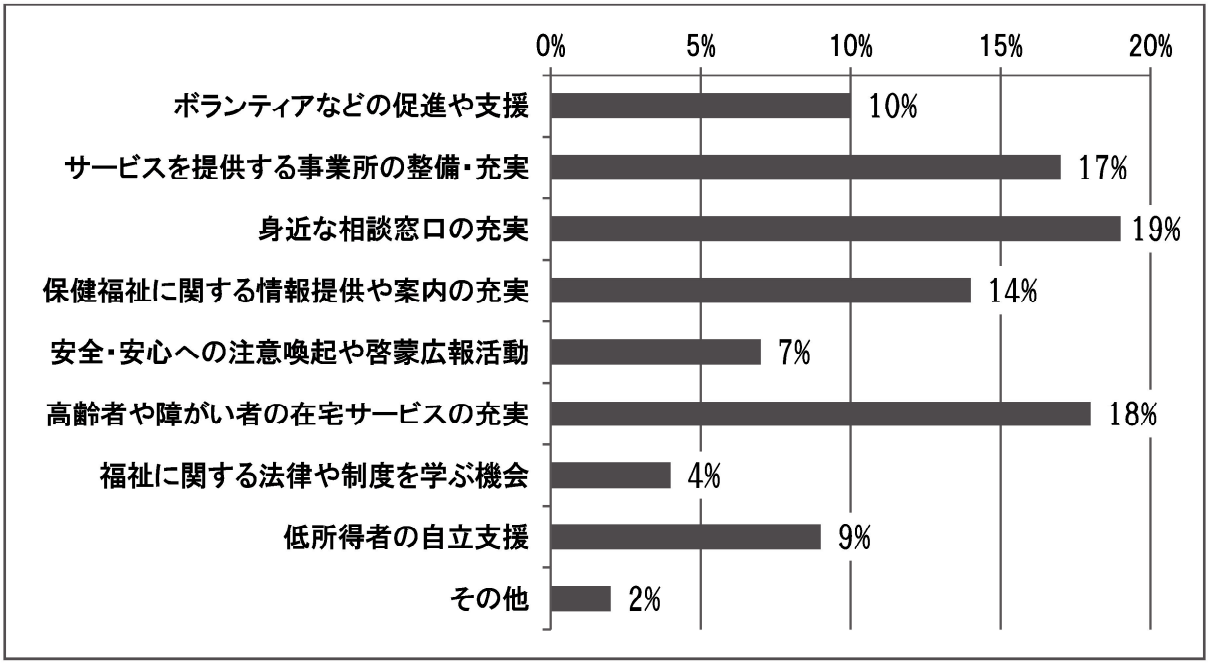
・相談できる場を提供するとともに、相談することに対する抵抗感を軽減するための工夫が必要です。

・日常から安心して暮らすことができるようなネットワークづくりが重要です。

・福祉サービスを十分に理解し利用できるように情報の周知を強化することが必要です。また、情報提供の方法も世代に合わせた様々な手段の検討が必要となっています。

（４）福祉サービスについて

市が優先すべき施策については、身近な相談窓口の充実や高齢者や障がい者が在宅生活できるサービス及びサービスを提供する事業所の充実などを望む声が多くなっています。



Ⅴ　活気みなぎるふくしのまちづくり

第３期　市長の基本テーマ「誇れる街　苫小牧へ～活気みなぎるふくしのまちづくり」について、市（行政）として各部署の「ふくしのまちづくり」についての取組を検討し、市一丸となって取り組んでいくことを確認しました。

●目標

市民・企業・地域・行政が「ふくし」でつながるまち

●目指すべきまちの姿

・「ふくし」の心あふれるまち

○全ての市民が生き生きと活気にあふれ心豊かに暮らせるまち
○市民であることが誇りに思えるまち
○子どもを生み、育てやすいまち（少子化対策）

・自主・自立と助け合いのまち

○市民が主体となって、自ら考え、行動し、決定することができるまち
○市民参加により地域福祉の充実したまち
○よりよく生きること、自由、平等、協働が実現できるまち
○個人の尊厳と基本的人権が尊重される地域社会を創造するまち
○ともに生き、互いに支えあうまち

・ふくしの環境整備充実のまち

○バリアフリーの推進（物理的、制度的、意識的、情報面）
○すべての人にやさしいまち（ハード、ソフトすべて）

・ふくしの市民サービス充実のまち（市職員の考え方と行動）

○安心と信頼関係で築くまち
○「みんなのために」という考え方を職員全員が持っているまち